

小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会

## 平成 24 年度 第3回市民意見交換会 概要

### 「再生可能エネルギーの今と昔をみてみよう！」

日時：平成 25 年 2 月 24 日（日）9:00～12:00

会場：小田原市内 見学地 4 か所

#### 出席者（五十音順 敬称略）

・参加者

参加者総数：19 名

・小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会

【コーディネーター】志澤昌彦

【委員及び関係者】井澤幸雄、西山敏樹、原正樹、山崎淳一

【関係者】辻村百樹

・小田原市事務局

環境部副部長、エネルギー政策推進課副課長、エネルギー政策推進係員 3 名

・オブザーバー

押田健一（小田原市 建設部道水路整備課）

#### 趣旨

協議会で検討を行ってきた大規模太陽光発電事業を行う予定地である「大規模太陽光発電所建設予定地」、市内に残る大正時代の小水力発電所の遺構、荻窪用水の見学を行い、本市における再生可能エネルギーの導入促進について理解を得る。

#### 結果概要

##### <1 大規模太陽光発電所予定地>

- 「ほうとくエネルギー株式会社」によって進められている大規模太陽光発電事業の実施予定地の見学を行った。
- 志澤氏から、太陽光パネルの実物を用いて、大規模太陽光発電所の概要及び市民参加を取り入れる意義について説明があった。
- 辻村氏から、建設予定地及び林業の現状についての説明があった。

#### 説明概要（志澤氏）

- 設備容量は 999.6kW を予定しており、年間の発電量は、約 260 世帯分の年間電力使用量を賄うことができる。
- 大規模太陽光発電事業を行うに当たり、事業資金の一部を市民出資により賄うことで、地域の方々が直接再生可能エネルギー事業に参加できる機会を設けたい。売電による収益の一部を出資者へ還元し、地域に利益をもたらす取組として行きたい。

### 説明概要（辻村氏）

- 現在の林業は、木材の搬出コストが利益を大きく上回り、林業経営は非常に厳しい状態である。
- この建設予定地は、現在は公共建設発生土の埋立地として使われている。
- 環境に貢献することはもちろん、土地を大規模太陽光発電所用地として貸し出し、その貸料を林業に費やすことにより、山の保全に取り組んでいくことを考えている。

### 主な意見

- 日頃見ることができない場所を実際に見ることができ、とても有意義であった。
- 実際に予定地を見ることで、“地域のエネルギー”ということについて実感が沸いた。
- 地主さん自らの説明により、地主さんの考え方や環境への取組を聞くことができて良かった。

### <2 小水力発電所遺構「発電機跡」、「沈砂池跡」>

- 大正時代に建設された小水力発電所の発電機跡及び沈砂池跡の見学を行った。
- 辻村氏から、小水力発電所の歴史的経緯、当時の設備容量、電力の供給先等についての説明があった。

### 発電機設置跡 説明概要（辻村氏）

- 大正時代に建設された小水力発電所であり、当時の出力は 117kW であったという資料が残っている。
- 発電された電力は、当時市内にあった紡績工場へ売電されていた。
- 発電機は、戦後の混乱の中で盗まれてしまった。

### 沈砂池跡 説明概要（辻村氏）

- 枯葉などの水中のゴミを取り除き、一定量の水量を確保して発電機に安定した量の水を送るための設備であった。
- 現在残っている石垣や水路に架かっている石の板も全て当時のものである。

### 主な意見

- こんな遺構が残っていることに感動した。発電所として復活しなくても、この遺構を巡るツアーなどを開催し、もっと人々に認知されるべきだ。
- 未来への財産として是非復元して欲しい。
- もっと広報誌等を利用してPRを行ったほうが良いと思う。

### <3 荻窪用水見学>

- 荻窪用水櫻田隧道出口付近の見学を行った。
- 押田氏から、用水路内部の写真等を用いながら、荻窪用水についての説明があった。

## 説明概要（押田氏）

- 荻窪用水は、江戸時代に建設された箱根町の塔ノ沢付近から荻窪までの全長 10.3km の用水路であり、公益社団法人土木学会の選奨土木遺産として登録されている。

## 主な意見

- 荻窪用水の流れを利用して発電を行い、少しでも地域で使用する電力を賄うべき。水路の流れや水量を見て、発電が可能だと思った。
- 荻窪用水を一日かけて歩いてみたい。

## <4 全体を通しての意見等>

- やはり“百聞は一見にしかず”であった。再生可能エネルギーの導入について、良い情報を得ることができたと思う。
- 市民に対し、説明会や勉強会を開催し、協力要請をすべき。
- 太陽光発電、水力発電の仕組みが分かるように、広報などを充実してもらいたい。一緒に考えて行きたい。
- いくら市民のためのエネルギーや環境保全のためといっても、会社として最低限の持続可能な経済性の確保が必要であると感じる。
- 第2回市民意見交換会のようなワークショップと今回の見学会を組み合わせると良いのではないか。
- 幅広い年齢層を対象とした見学会を行い、市民を交えて今後の方向性を考える企画を行ってほしい。